

会議録

会 議 名	第9回公共施設マネジメント推進計画検討会
日 時	平成28年8月26日(金) 午後2時～4時00分
場 所	八王子駅南口総合事務所 会議室
出 席 者	木村 俊介、倉斗 綾子、増尾 喜久、渡辺 悠子
事 務 局	行財政改革部長 吉徳 光男 行政管理課長 田倉 洋一 学校複合施設整備課長 兼 行財政改革部学校施設活用推進担当課長 内野 茂樹 建築課主査 永井 道之 行政管理課課長補佐兼主査 高嶋 秀樹 行政管理課主任 棚島 孝志
欠 席 者 氏 名	なし
議 題	(1) 学校施設の複合化に当たっての考え方について (2) 公共施設マネジメント推進計画第4章「施設配置の基本的な考え方」について (3) 公共施設マネジメント推進計画第6章「計画の推進に向けて」について (4) その他
公開・非公開の別	公開
非 公 開 理 由	
傍 聴 人 の 数	なし
配 布 資 料 名	資料1：学校施設の複合化に当たっての考え方について 資料2：公共施設マネジメント推進計画第4章「施設配置の基本的な考え方」 資料3：公共施設マネジメント推進計画第6章「計画の推進に向けて」 資料4：公共施設に関するアンケート結果について※ ※ 当日机上配布
会 議 の 内 容	
<p>(1) 学校施設の複合化に当たっての考え方について</p> <p>【事務局】(資料1)に基づき説明)</p> <p>【委員】各施設共通の効果として、一番初めに維持管理費の縮減など、コストについて書き始めてしまうと、学校側にはメリットはないと受け止められかねない。地域の人が近くにいる環境が教育に効果があるということも、共通の効果として記載して良いのではないかと。図書館と複合化した場合の課題に「児童生徒が利用することによる貸し出し図書減少」とあるが、学校図書室の本は学校図書の予算で購入していると思うので、課題としてあげるほど子どもが図書館の本を借りることはないのではないかと。また「(管理者にとって)学校と図書館との調整が必要となる」とあるが、貸し出しは図書館と図書室で別々に行うと思うので、これも課題になるくらい調整が必要なものなのかと感じる。</p>	

市民センター（市民集会所）と複合化する場合の課題については「（利用者にとって）児童生徒が利用することによる貸し出し部屋の減少」とあるが、市民センターを複合化するとしたら学校の方が主になるはず。通常児童生徒が使用している校舎を市民が借りることになるので、「利用者にとって」という表現は逆に感じる。逆にいえば、時間に制約はあるかもしれないが、学校と複合化することによって、体育館や調理室など、通常の市民センターより設備が充実している施設を借りられるということは、利用者にとってメリットも生じる。あわせて、市民センターのメリットとして、市民活動の場が学校の中にあることにより、コミュニティの活性化が期待出来るといったことも記載してはどうか。

【事務局】貸し出し図書は減少については、図書館の蔵書にも限りがあるので、子どもが借りることで利用者が借りられる図書が減ってしまうことを懸念した。

【委員】児童生徒が市民として図書館の本を借りることは良いことではないか。

【委員】児童生徒が本を身近に感じられるのは、むしろ効果ではないか。

【委員】今まで図書館に行かなかった児童生徒が図書館を利用することになれば、図書館の利用促進を目指す図書館側にもメリットがある。

【事務局】管理者にとって調整が必要になるというのは、児童生徒が大人数で特定の時間帯に利用する場合に、空間的に利用者にとって制限がかかり、利用する時間帯を調整する必要が出てきたりするのではないかという意味で記載した。

【委員】建物の設計によるのではないか。

【事務局】イメージしていたのは、学校図書室と図書館をコーナー別に区切るのではなく、図書館より小規模な地区図書室のような施設を地域住民も児童生徒も利用出来るようにといったことを考えていた。空間を区切れるのであれば課題というほどの調整も必要にならないかもしれない。

【委員】学校図書が別の予算で購入されているのであれば、図書を混在して管理するのは難しいだろうから、自ずとコーナーは区切られてくると思う。

【座長】本の管理という面以外に、例えば図書館の閉館時間と学校の校門開閉時間についての調整等、施設自体の運営の調整も必要になるのではないか。

【事務局】そういった動線についての調整も含めて記載していたが、もう少し具体的に表現するよう検討する。

【委員】学校司書と図書館職員を兼務するようなことは出来るか。専門的な司書が学校に常駐しているということも学校にとってメリットになるのではないか。

【委員】司書を採用する際の組織的な問題もあるのかもしれないが、「公共施設マネジメント基本方針」にも「全庁的な推進体制の整備」について記載されているので、職員体制に工夫ができるならメリットだと思う。

【事務局】司書がいない時間がある学校があるので、その時間を図書館司書が補える場合にはメリットになるかもしれない。

【委員】保育園と複合化した場合の課題として「事故を防止するための安全管理に対する配慮が必要」と記載されているが、保育園は車での送り迎えが多いので、車との接触であったり、子どもの年齢層が幅広くなるので、遊び場をどう確保していくかという安全面での課題もある。他にもあるかもしれないが、事故防止とは具体的にどのようなことを想定しているかを記載したほうが良いのではないか。

【座 長】効果の項目で、民間施設との複合化に限って、市のメリットとして賃料収入が記載されているが、例えば市が土地を借りて施設を運営しているなら、学校と複合化して賃借料がかからなくなるというのも市のメリット。民間施設の項目にだけ、市にとっての効果が記載されているのは不揃いを感じる。

スポーツ施設については「専門家による指導が受けられる」とあるが、複合化の機会に学校側がスポーツ施設と契約を結んで、何か指導を受けられるようにするのか、従来以上にスポーツ施設を児童生徒が身近に感じるようになって、放課後に利用する機会が増えて、結果的に専門家の指導を受ける機会が増えるのか、どちらの意味か。

【事務局】一つの例としては、学校のプール授業を、複合化したスポーツ施設で行わせてもらうことによって、専門家による水泳指導を受けることが可能になる。授業は先生が中心になるが、授業効果としては大きいものが得られるのではと考えている。

【委 員】専門家による指導と記載してしまうと、先生はただ見ているだけと受け止められてしまうので、専門家による「サポート」のような表現が良いのでは。また、スポーツ施設といわれるようなものと複合化する場合、通常の学校体育館のような、劇も体育の授業も、卒業式もやる…といったものでなく、性能の高い施設を児童生徒が使えるようになるのであれば、ハード面でのメリットがあるといえるのではないか。保育園については、保護者にとって自分の子どもが通うことになる学校を、実際に通っている子どもたちを見ながら利用できることによる安心感等もメリットとして記載して良いのではないか。

【座 長】民間施設との複合化による課題として記載しておかなければいけないのは、都市計画法をはじめとする法令上の規制との調整。文教施設である学校に民間施設を複合化させることは相当にハードルが高いのではないか。

また、「動線」や「管理者」という表現があるが、学校施設に学校関係者以外の方が無断で立ち入ることがないようにするという主旨を、もう少し分かりやすく表現した方が良い。管理者は、いわゆる指定管理者のように管理を仕事としている人間ではなく、学校という公共財産を管理している「市」という意味で記載しているのであれば、もう少し良い表現が他にあるのではないか。

【委 員】民間施設との複合化は他の施設と違い、立場の違う者同士の複合化となるので、例えば、賑わいを創出したい、人をたくさん呼びたい民間企業と、あまり不特定多数の人を入れたくない学校側等の調整が課題としてあげられる。

【委 員】効果の項目は児童生徒や利用者にとってのものが多いのに対し、課題はほとんどが管理者にとってのものなので、管理者側の努力次第ではないか。

(2) 公共施設マネジメント推進計画第4章「施設配置の基本的な考え方」について

【事務局】(資料2)に基づき説明)

【座 長】「公共施設マネジメント推進計画」の全体構成でいくと、第2章は、「将来八王子市の人口は減少する」という前提で、第3章では「新しい施設は原則として整備しない」ことを基本方針としている。さらに、第4章では「総延床面積を縮減していく」といった構成に対し、数値目標を「現在の市民1人当たり延床面積2.03㎡を将来的に概ね2㎡とする」としているのは、人口が減るので総延床面積は減らしていくが、甚だしくは減らさないということか。この表現だと意図が分かりにくい。

【委 員】現在の市民1人当たりの延床面積が、何をもって「人口規模に応じた」とか「適正規模である」と言い切れるのか。数値的な論拠がないものを「現状がこうだからこれでい

いんです」というのは乱暴では。中核市の平均を大きく下回っていることが良いことのように書いてあるが、適正な規模とはこれくらいであるといったデータを引用するか、市民満足度調査を実施した結果、適正な施設の量はこれくらいだった等、何らかの基準を示さないまま書いても説得力がない。

【事務局】2㎡が適正な規模かということに対し数値的な根拠は無い。感覚的になってしまうが、先日行った市民アンケートの中で「規模を縮小（施設の数や面積を減らす）してもよいと思う施設はあるか」という問いに対し「特にない」と回答した人が一番多く30.8%だった。また、以前に委員からもご指摘をいただいているが、市民1人当たりの延床面積が中核市の平均を大きく下回っている中で、公共施設全体の6割を学校が占めている現状を考えると、一般市民の中で現在の施設規模が多過ぎると感じている人は少ないと考えている。現状を維持しつつ、施設の集約化等によってさらに付加価値も高めていこうというのがねらい。

【委員】「人口規模に応じた」という表現の中には財政規模も含まれるのか。人口と財政とはほぼ比例しているとは思いますが。

【事務局】含まれない。将来の税収や財政見込みが予測出来ていないので、財政規模に応じた適正規模というものが出せていない。

【委員】説明を聞いたら理解できるが、この文章からでは意図は読み取れない。表現するのが難しいが、何とか表現しなければいけない。

【委員】八王子市はひどい状況ではないということは、堂々と言っていいことだと思う。多摩地域でも平均的だし、他の中核市よりも十分に施設のスリム化を行ってきている。しかし、将来の人口減少や人口の年齢構成の変化を考えると、より適切なスリム化を図っていく、より良い将来のためにきちんと計画を立てているという表現をしなければいけないと思う。見せ方の問題として、目標を立てているのに面積がそれほど変わらないのが分かりにくいので、1人当たりの延床面積としないで、現状の総延床面積と目標の総延床面積を書いて、何%の削減としたほうが分かりやすいのではないかな。

【事務局】目標を1人当たりの延床面積としている理由は、八王子市が子育て施策やシティプロモーションの取組により、他市から人を呼び込むことができ、現状の人口をこれからも維持できるのであれば、施設の総量を維持していくという意味も含まれている。

【委員】平成58年度末時点の目標である「概ね2㎡」は、人口を何万人と想定して計算したのか。同じ平成26年度末時点の人口で計算していると思われると、今のままでいいのではないかと受け止められてしまう。そこははっきり示した方がよい。

【座長】もし、総延床面積を具体的に何㎡減らすといった表現をしたくないのであれば、数字までは出さずに、「総延床面積の縮減を図りつつ、1人当たり延床面積は維持していく」といった表現もあるのでは。いずれにせよ、他の委員の意見にもあるように、どこかに総延床面積は減らすんだということを書かないと、何が目標なのかが分からない。

【事務局】施設の総延床面積を減らすという目標だけでなく、人口維持、人口増に向けて八王子市全体で取り組んでいくという意味も含めた目標としたい。

【委員】現状に支障がないとか、現状の環境や市民の満足度を落とすたくないということであれば「適正」という絶対的な数値のないものを拠り所にする必要は無い。アンケート調査やヒアリング等により、現状を維持する、より良くするといった相対的な位置づけで表現すれば良いのではないかな。

- 【委員】現在の1人当たり延床面積2㎡という水準を、人口が減っても増えても維持していくということを書けば良い。
- 【委員】4章で「2 取組の手法」とあるが、「公共施設マネジメント基本方針」の6つの柱に対して取組の手法をリンクさせることが出来たら理にかなっている。
- 【事務局】4章の「取組の手法」はどちらかといえば建物のハード面での取組手法を書いている。「受益者負担の適正化」等のソフト面での取組については、この後の6章「計画の推進に向けて」で取り上げている。
- 【座長】基本方針の柱の中で使われている言葉を、極力「取組の手法」の中に落とし込んで共通化できれば良いのではないか。
- 【座長】6ページから8ページで「市民生活における必要性」と「民間サービスによる代替性」により、施設分類ごとに評価しているが、施設縮減の方向性からいえば、表のL字部分、1B、1A、2A、3Aあたりが検討の対象になると思う。6ページ、全市的施設の2Aにある「専修学校」は今回初めて出てきたものか。
- 【事務局】今まで「看護専門学校」という固有の名称で記載していたものを施設類型の表現に置き換えた。
- 【座長】2Aとなると、かなり見直しの余地があるという印象を受けるが、看護学校は見直しがありえるのか。
- 【事務局】八王子市内の医療施設に従事する看護師は充足しているとはいえない。そのため、地域医療に貢献する看護師を養成することを目的に開設した看護学校を廃止するということは難しいと思う。ただ、看護学校というサービスは残すとしても、現在の場所に残さなければいけないのかという点では議論の余地があると思っている。周辺に小中一貫校化された学校があるので、学校施設を活用するというようなことはありえる。
- 【座長】今まで地域的施設と位置付けていた「行政資料保管施設」を全市的施設に移した経緯は何か。
- 【事務局】現在、廃校になった校舎を行政資料の保管施設としているが、行政資料の保管場所も足りなくなってきており、当面は市内に1か所しかない全市的施設として見直した。1A（市民生活における必要性：低い、民間サービスによる代替性：高い）と位置付けてはいるものの、残していかなければいけない施設だと思っている。ただ、現在の場所ではいけないわけではなく、同程度のコストで民間施設が借りられるのであれば、現在の場所を廃止することもありえる。
- 【座長】市民感覚からいえば、全市的施設の1Aというのが一番見直しの対象になるべき施設だと感じると思うが、残していかなければいけない施設という認識なのか。
- 【事務局】全市的施設は市に1、2か所しかないのだから、そのサービスが必要と判断された場合には、むしろ残していくべき施設だと思っている。地域的施設や生活圏域施設で、表の左下に位置付けられるような施設が民間に移譲していくような施設だと考えている。
- 【座長】そうすると、地域的施設のテニスコートや、生活圏域施設の地区会館が議論の対象になるということか。
- 【事務局】テニスコートは、施設としては維持していくことになると思うが、受益者負担の適正化を図っていく。地区会館については地域への移譲を進めていく方向で考えている。
- 【座長】この表は、喫緊に手を付けなければいけない施設を分類する目的で作成していると認識していた。今までの議論だと、全市的施設の宿泊施設のようなものが議論の対象になる

と思うが、そうではなくて全市的施設だから残していくという…

【事務局】この分類は、施設そのものをどうするかということではなく、行政がそのサービスに関わる必要性の高いものが右上に分類され、行政が関わる必要が低いものが左下にきている。サービスと施設は分けて考えている。

【委員】必要なものであるならば、市内に1か所しかないような施設は必要性が高いといえるのではないか。この表を基に議論をすべきで、そうでないと今までの議論が崩れてしまう。前提を崩してしまってはもったいない。

【事務局】サービスと施設は分けて考えるべきで、まずはこの表を用いて、行政が関わる必要性の低いサービスを抽出し、次に利用率や老朽化度合から施設を分類する。行政が関わる必要性の低いサービスでかつ利用率が低ければ、施設を維持していく必要がない。必要性は低いが利用率は高い場合、老朽化度合が高ければ建替えや施設の長寿命化も検討しなければならない。2段階の整理の1段階目がこの表にあたる。

【委員】その説明をこの表の前後でしないと、説得材料としては欠ける。

【座長】先ほど事務局から説明があったような進め方でやっていくということであれば、やはりその説明の記載がほしい。サービスの分類と、利用率や老朽化度合という二つの組み合わせで考えるのであれば、それを通したほうが良い。さらに全市的施設は残したいといった別の理由を新たに加えてしまうと話が分かりづらくなってしまう。

【事務局】確かに、残さなければならない行政資料を保管する施設が足りないとすれば、市民生活への必需性は高いと考えても良いのかもしれない。ご指摘を踏まえ、位置づけを再度精査したい。

【事務局】数値目標の議論をもう一度確認させてほしい。当初、目標を「現状の水準を維持」と表現するか「概ね2㎡」と具体的に数値で書くか検討し、数値にした経緯があるが、ここはやはり数値の方が良いか。

【座長】数値であることと、あわせて論理立てをはっきりと分かりやすく。

【委員】「数値目標」と書いてあって、現状の2.03㎡を、将来に「概ね2㎡」といわれても分かりにくい。2.03㎡も概ね2㎡なのではないか。現状の2.03㎡、概ね2㎡という水準を、今後も人口が増えても減っても維持し続けられる体制を整えていく、といったことを書いていけば良いのでは。「数値目標」という書き方がふさわしいかどうかは分からないが。

【委員】目的が「現状の市民の満足度」だとすると、その目的に到達するために「2㎡」を目標とする、というように目的と目標の関係を明確にした方が良い。

【座長】様々な手法を用いて、サービス水準は落とさずに、施設の総床面積は人口に応じて縮減していくということ、もう少しはっきりと記載しないと分からない。

(3) 公共施設マネジメント推進計画第6章「計画の推進に向けて」について

【事務局】(資料3)に基づき説明)

【委員】4ページの「3 計画のフォローアップ」について、この図だと、P(計画)のためにD(実施)、C(評価)、A(改善)を行うように思える。PDCAはそれぞれ並列に連携した関係であって、P(計画)が終わったらそれぞれにD、C、Aが動くので、計画のフォローアップとは馴染まない。P(計画)はあくまでもD(実施)のためにあるもの。D、C、Aの中に「計画に基づいた～」とか「計画の～」とかそれぞれに計画とい

う言葉が出てくるが、D、C、Aにはもう計画は入ってこないはず。計画を作って、それで終わりなのかと誤解を生む表現だと感じる。

【委員】PDCAサイクルを用いるのであれば、1つのサイクルを何年位のスパンで回していく等、具体的に表現すると分かりやすい。今年度P(計画)を作ったので、何年から何年にかけて実行して、何年度からチェックを始めて…とすれば言葉だけでなく実際に回っていく感じが出るのではないか。

【事務局】他の自治体では「公共施設等総合管理計画」を策定したものの、計画どおりに実行されないということは良く耳にする。八王子市ではそういったことがないようにしなければいけない。まずはきっかけとなるようなモデル地区を作り、地域との話し合いを重ね、地域住民の声を反映させた施設が出来上がるということを、市内全域に向けてアピールすることで、計画全体のサイクルがうまく回っていくと考えている。

【委員】このPDCAサイクルの図に、現時点で決まっているモデル地区による試行がどのあたりに入ってくるのかが分かると、八王子市がどういった展開をしていくのかが分かりやすいと思う。

【座長】2ページに「2 推進に向けた今後の取組」とあるが、学校施設に関して何か書けることはないか。例えば、公共施設マネジメント推進計画を策定することで、当初予定していた既存の学校改修計画を見直して、公共施設マネジメント推進計画と整合するような計画に変更するとか、効率的な校舎の解体を実施するとか。ハード面では学校施設が大きいと思うが。

【事務局】学校施設が建物全体の6割を占めており、複合化する先も学校が中心となるので、学校の計画が施設マネジメントでも重要になる。そのため、(1)の実施計画の後段で特に学校について触れている。改修の計画だけでなく、小中一貫校や小規模校の考え方、適正配置推進計画とも関係してくるので、それらとの整合を図ることとしている。推進に向けた今後の取組においても、将来的な学校施設のあり方が重要となるので、分かりやすい表現ができないか検討したい。

【委員】計画を作った後どう進めていくかが一番重要だと思うが、他の自治体でも計画が進んでいない原因や問題点について、八王子市ではどう対応していくかを具体的に書ければ、八王子市の意気込みを表せるのではないか。

【事務局】行政側が一方向的に「施設の何%を削減する」とか「この施設は廃止の検討対象とする」と決めつけることで地域住民から反発があった場合、この計画そのものが頓挫してしまう。少し時間はかかるかもしれないが、地域住民の意見を聴きながら進めていくことが、この計画を実行に移す際の重要な点だと思う。「情報共有」や「合意形成」がキーワードになってくると思うので、その点はしっかりこの計画の中で表現したい。

【委員】1ページの「1 推進体制(2) 職員のマネジメント意識の共有」の中に「職員を対象とした研修会」とあるが、現地での実習も含まれているか。座学の研修だけでマネジメント意識の共有が図れるのかどうか。

【事務局】建築課が現在行っているのは、施設を管理している課に日頃から建物に興味を持ってもらい、建物の長寿命化に役立つ日常点検とその対処法を身につけるための説明会。公共施設マネジメントまで踏み込んだものには至っていないが、施設管理者に対し、今後も自分の施設に対する意識を向上してもらうための研修を充実させていきたい。

【委員】2ページの「2 推進に向けた今後の取り組み(3) 固定資産台帳の活用」は今まで議論した内容には出てこなかったが、他の項目と並列で扱うべき内容なのか。

【座 長】固定資産台帳は、すべての自治体が初めて整備する台帳で、今まで面積や建築年度などの台帳しかなかったが、価格評価まで記載した台帳を整備することで、ファシリティマネジメントに役立てようとするもの。主要な施策であることに間違いはないが、もう少し一般市民に伝わりやすいよう、台帳を整備することによって、公有財産の有効活用が図れるとか、費用対効果の分析が出来るとか、そういった文言を盛り込んでいけば良いのではないか。

(4) その他

【事務局】(資料4)に基づき、公共施設に関するアンケートの結果報告)

【座 長】施設の総量を圧縮しても良いという回答が「実施すべき」、「どちらかといえば実施すべき」を合わせて79%、地域への移管も「実施すべき」、「どちらかといえば実施すべき」を合わせて65%と、他の自治体で実施している同様のアンケート結果と比較しても極めて高い。総論とはいえども市民の皆さんはかなり理解されているということ。この結果は是非有効活用した方がいい。

【委 員】施設を「利用したことがない」という回答がどこの施設も大きく見えているが、例えば子育て支援施設や高齢者施設は、年齢層をもっと絞って回答を分析しなければいけない。

【座 長】本日も貴重な意見が出たので、討議を反映した最終計画案を各委員に送付してほしい。昨年から9回にわたり議論してきた公共施設マネジメント推進計画検討会は、本日をもって終了とする。年度末に無事に計画が策定され、実のある公共施設マネジメントが八王子市で進められることを期待して本日の検討会を終了する。